令和6年度ふくしま絆ふれあい支援事業「ふくしまを十七字で奏でよう」作品集

〔主　催〕
福島県教育委員会

令和6年度

ふくしまを十七字で奏でよう

～想いを繋ぎ　想いを届ける　十七字～

絆部門 最優秀賞

お手伝い　切りたいまぜたい　よそいたい（子）
倍かかる　それを覚悟に　頼みます（母）

おかあさん　あさがおさいた　またさいた（子）
あさがおの　花が咲くたび　笑顔咲く（母）

弁当と　母の手紙で　昼充電（子）
手紙にも　想いを詰めて　母応援（母）

夏休み　父と一緒に　二人旅（子）
見える子と　見えぬ妻との　珍道中（父）

反抗期　入るためには　姉の許可（妹）
妹よ　反抗期届け　出てないよ（姉）

ふるさと部門 最優秀賞

このせきに　パパもすわって　いたのかな（子）
我が母校　時が流れて　子の母校（父）

お空から　よろこぶばぁば　会いに来た（子）
鐘の音で　伝統の夏　伝えたい（父）

子に繋ぐ　一緒にめぐる　津波あと（母）
知ることは　一つの命を　守ること（子）

赤がわら　七色アーチ　通り雨（子）
気高さや　城を見上げる　立葵（母）

ほら貝の　厳かな音が　染み渡る（子）
騎馬武者の　歴史新たに　風五月（母）

絆部門 優秀賞

大成功　屋台上演　祇園祭（子）
祭り後も　セリフ飛び交う　家の中（母）

川の字を　いつまでいっしょに　書けるかな（父）
まん中は　わたしのすきな　していせき（子）

ひーばぁちゃん　画面の中で　うれし泣き（子）
五年経ち　今だ変わらぬ　リモート面会（母）

点を決め　見つめる母に　ガッツポーズ（子）
ファン一号　メガホン片手に　声枯らす（母）

いつからか　僕を見上げて　叱る母（子）
いつの間に　目線が高く　言いにくい（母）

ふるさと部門 優秀賞

子にうつる　方言まじりの　話し方（母）
そうだっぺ　福島生まれの　私なの（子）

千年の　足音そろう　れきしあり（子）
願いこめ　人馬一体　影のびる（母）

くわっせよ　心のこもった　福の桃（友人）
たくさんの　努力の結晶　桃ひとつ（友人）

大地震　お腹の中も　ゆれていた（子）
あの時は　きみがいたから　がんばれた（母）

だんだんと　もどってきたんだ　「ふるさと」が（子）
あきらめない　広がる水田　父の意地（母）

お問い合わせ先

ひとつ、ひとつ、実現するふくしま

福島県教育庁 社会教育課

〒960-8688　福島市杉妻町2番16号（西庁舎4階）

TEL 024-521-7799

URL▶https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70016a

社会教育課HP

社会教育課X(旧Twitter)

協賛企業・団体（五十音順）

会津中央乳業株式会社、株式会社岩瀬書店、株式会社ダイユーエイト
株式会社テレビユー福島、株式会社ナカジマエレテック、株式会社福島銀行
株式会社リオン・ドールコーポレーション、公益財団法人日本漢字能力検定協会
公益社団法人福島青年会議所、公立学校共済組合飯坂保養所「あづま荘」
伊達物産株式会社、東信建設工業株式会社、福島中央テレビ、福島民報社
福島民友新聞社、酪王協同乳業株式会社

この事業は、「福島県東日本大震災子ども支援基金」により実施しています。

絆部門 佳作

パパみてよ　ひらがなじょうずに　かけたでしょ(子)
書き順は　大目にみるか　「上手だよ」(父)

産まれたよ　私の弟　いいにおい(子)
おねえちゃん　呼ばれ振り向く　照れ笑い(母)

うでずもう　まだまだ母に　かなわない(子)
ちからこめ　笑顔のうらに　余裕なし(母)

やっつける　じいちゃんいじめる　わるい虫(孫)
電話ごし　魔法の薬　孫の声(祖父)

親が来た　急いでねたふり　なぜばれた(子)
なめるなよ　十年寝顔を　見ています(母)

夏休み　わたしの先生　お兄ちゃん(妹)
おれがまん　夏休み中は　休戦中(兄)

反抗期　変わらず食べたい　母の味(子)
口数は　減ったが食べる　量は増え(母)

超えたでしょ　背中を合わせ　鏡見る(子)
母の意地　超されてないと　背を伸ばす(母)

おはようと　そのためだけに　起きてきた(子)
やっと来た　その声まって　行って来ます(父)

どうやるの　裁縫得意な　祖母に聞く(孫)
針の穴　見えぬふりして　孫を呼ぶ(祖母)

ふるさと部門 佳作

かわってく　せんだつ山の　みどり色(子)
エネルギー　環境保護との　両天秤(父)

待ちわびた　旅も家路に　ほっとする(子)
都会より　見慣れた景色と　子の寝顔(母)

とげとげが　時間をかけて　つながった(子)
落つ水が　心踊らす　鍾乳洞(母)

腹くっち　天ぷらまんじゅう　五個ぺろり(子)
折詰(おりづめ)めの　天ぷらまんじゅう　せがむ子等(こら)(父)

福島に　移り二十年(はたとせ)　ここが故郷(ふるさと)(父)
十二才　父から教わる　福島県(子)

街灯に　照らされ夜の　商店街(子)
月明かり　悠遠な星へ　想いのせ(母)

母の中　震災の記憶　同い年(子)
大地ゆれ　心ゆれても　腹(こ)は護る(母)

暑い夏　しゃんぎりの音(ね)に　胸おどる(子)
過ぎし日の　自分と重なり　胸熱く(母)

鎮魂の　灯籠流る　夏井川(母)
今は亡き　祖父の笑顔を　思い出す(子)

おさかなが　ぼくのてのひら　いやがった(子)
岩の下　よく見てごらん　また来たよ(母)

十七字で想いを届けあった参加者の感想

◆二人で話し合いながら完成させた作品が、最優秀賞という結果になり、びっくりして、驚いております。二人共々、喜んでおります。これからもまた、色々な話をしていきたいと思います。

◆親子で、コミュニケーションを取りながら、作品をつくれて楽しかったです。来年も機会があれば参加したいです。

◆東日本大震災後に生まれた娘に、今ある暮らしが当たり前だと思って欲しくない。その思いからいわき震災伝承みらい館で行われた薄磯、豊間地区をまわる謎解きバスツアーに参加しました。館長さんや語り部さんの話を聞いて「備えること！」「自分の一つしかない大切な命を守ること！」を学べたと感じた今日の気持ちを忘れないように、二人で作品に気持ちを込めました。

◆この度は、このような賞をいただきありがとうございます。夏休みのひとときに親子でふるさとの日常を思い、文字にする機会を設けていただいたことは、とても良い思い出になりました。福島県には美しい自然、美しい食べ物、愉しむ場所など魅力が沢山あると感じています。子供達がどこへ行ってもふるさとを思う気持ちを忘れず、いつでも安心して戻ってこられるふるさとであってほしいと思います。

◆夏休みの課題として娘と初めて挑戦しました。一生懸命考えている娘の姿に成長を感じました。

◆一つの事柄に対して、親子でどのような十七字を奏でるか一緒に考えることができ、親にとっても子にとってもお互いの絆を深める良い機会になったので良かったです。

◆普段は忙しく、なかなかじっくり伝えられない母への想いを、今回参加したことで、より伝えることができ、とても良い機会となりました。今後も、感謝の気持ちを忘れずに、母のメッセージとお弁当も共にいただきたいです。（娘）
今回参加したことで、娘への想いが伝わっていたんだと、嬉しく思いました。娘との絆がより一層深まったように感じます。（母）

◆LINE等の会話文章とは全く違う、親子での文章のやり取りは皆無となっている昨今、この事業の重要性を強く感じます。日常のなにげない会話だったり、普段は言葉に出しづらい想いが十七文字に表れる（表せる）機会を今後もぜひ推進して頂きたいと思います。

◆前にも兄と一緒に参加して入賞したことがあったので、今回姉と参加してこのような賞をいただけてとってもうれしいです。